
目次

3 はじめに

1 展示事業

4 1-1 所蔵品展示
20 1-2 企画展
38 1-3 共催展など

2 教育普及事業

40 2-1 講座・ワークショップなど
48 2-2 アーティスト・イン・ミュージアム[AiM]
49 2-3 その他

3 アートコミュニケーションプロジェクト

50 3-1 ～ながラーの構成
50 3-2 主な年間スケジュール
50 3-3 ゼミによる学びと実践
51 3-4 「この舟のろう方式」から生まれた活動
52 3-5 活動参加人数(対面・オンライン含む)

4 県民関連

53 4-1 県民ギャラリー
55 4-2 美術館サポーター
58 4-3 他機関への協力

5 所蔵作品と図書

62 5-1 新収蔵作品
70 5-2 作品貸出記録
72 5-3 作品の保存修復
78 5-4 主要刊行物
79 5-5 主要新収蔵図書

6 組織と関連法規

80 6-1 組織・業務と職員
82 6-2 協議会・委員会
84 6-3 関係法規

7 沿革と施設

92 7-1 沿革
98 7-2 施設概要
101 7-3 観覧者数

8 利用案内

103 8-1 利用案内
104 8-2 後援会

はじめに

このたび、令和2(2020)年の事業をまとめた『岐阜県美術館年報 37号』を発行いたします。昭和57(1982)年に開館した岐阜県美術館は、地域に根つきながら歴史を重ね、令和元(2019)年11月にリニューアルオープンし、アートコミュニケーションに視野を広げた美術館活動を目指すこととなりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の中で、臨時休館や展覧会の延期など、波乱のスタートを切りましたが、感染症予防に対応をしつつ、美術館活動の維持や、新たな方法の実施運営に取り組みました。例えば、「美とふれあい、美と会話し、美を楽しむ」理念を体現し、アートの魅力を提供するアートコミュニケーター「～ながラー」の1期たちは、Webツールを活用して、学びと実践をさまざまな切り口で展開しました。いつも新しいことに取り組む「アートまるケット」では、感染症に対応し「おうちに居ながラー美術館 拡張現実で収蔵作品鑑賞」として、所蔵作品をどこでも楽しめるプログラムを提供しました。教育普及活動では、学校団体の鑑賞の中止の代替として、オンラインでの鑑賞授業を行い、これまでは来館が難しかった遠隔地の子どもたちに美術館教育を届けることができました。

そうしたなかで会期を急遽調整して開催した「明治の金メダリスト 大橋翠石 ～虎を極めた孤高の画家～」をはじめ、「岸田劉生展 一写実から、写意へ」「三菱一号館美術館共同企画 1894 Visions ロートレックとその時代」の企画展を開催しました。所蔵品展では、「寄贈記念 熊谷守一展」「ぎふの日本画 いのちのリレー～土屋禮一を中心に」「篠田桃紅と抽象の世界」等で、当館の基盤となる豊かな所蔵品をご紹介します。

また、作品収集では、藤田嗣治、藤島武二、オディロン・ルドン、山田光をはじめ貴重な作品をご寄贈いただきましたことをご報告するとともに、多くの方々のご厚意に御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響が大きき年ではありましたが、岐阜県美術館は、県民をはじめとする皆様方の期待に応えていくよう、一層努力していきたいと思っております。ますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年3月
岐阜県美術館